

岡山畜産便り

2025 8



農事組合法人伍協牧場(肉用牛)

も く じ

〔就任のご挨拶〕

- (一社)岡山県畜産協会
代表理事会長 中塚 陽二郎 …………… 1

〔酪農・肉用牛施策〕

- 岡山県の酪農・肉用牛振興施策について
岡山県農林水産部畜産課 …………… 2

〔特集〕

- 岡山県内酪農及び肉用牛繁殖経営の収益動向
(一社)岡山県畜産協会 経営支援部 …………… 7

〔技術のページ〕

- 乳牛の暑熱対策
～夏季の繁殖成績を落とさないために～
畜産研究所 酪農研究グループ …………… 20

〔県民局だより〕

- 酪農家が手がけるジェラート・チーズを
食べに行こう！
備中県民局畜産第一班 …………… 22

〔共済フレッシュさん〕

- 獣医師になって三年終えて
備中家畜診療所備北出張所
新里 実子 …………… 24

〔畜産現場の声〕

- 一貫経営で挑む持続可能な牛づくりの道
農事組合法人伍協牧場 …………… 25

Asahi



100年続く、すこやかで
笑顔ひろがるおいしさ。

国産生乳^{*}を使い、
乳酸菌と酵母の発酵で
生まれました！

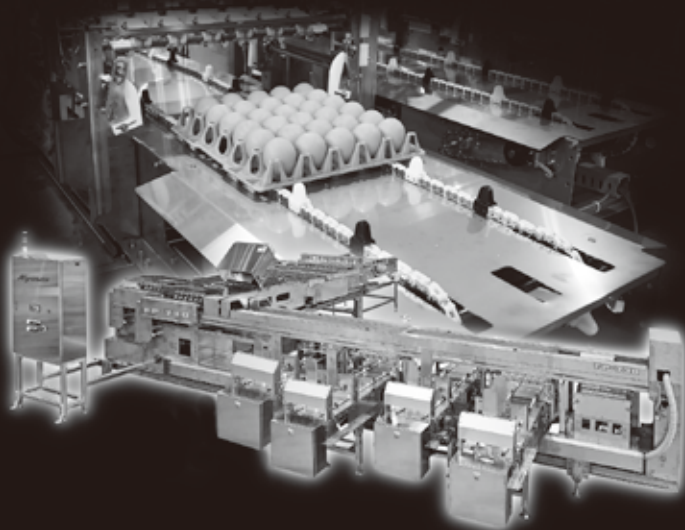


牛乳で
スマイル
プロジェクト

アサヒ飲料(株)は、日本の酪農業の持続的成長を応援しています。
「カルピス」「CALPIS」はアサヒ飲料(株)の登録商標です。
商品パッケージは時期により異なる場合がございます。
※生乳を脱脂した乳原料を使用しています。

100年のワクワクと笑顔を。
アサヒ飲料

FP-730



— 生産性と品質の調和 —
原卵の付加価値を高める
ファームパッカ

異常卵検出装置 ひび卵検出装置 汚卵検出装置



■特長

- ・ オプションで不良卵検出装置による規格外卵の選別が可能。
- ・ 主要構造部材をオールステンレスとし、堅牢で衛生管理が容易。
- ・ FP-365の倍の毎時73,000卵の処理能力。

仕様および外観は、製品改良のため予告なく変更することがあります。製品の詳細は弊社までお気軽にお問い合わせください。

Kyowa CREATE THE PERFORMANCE

共和機械株式会社 TEL 0868-26-6600

残暑お見舞い申し上げます

〒708-1115 岡山県津山市河面375 www.kyowa-machinery.co.jp

〔就任のご挨拶〕



一般社団法人 岡山県畜産協会
代表理事会長 中塚 陽二郎

当協会は、畜産経営の安定的な発展と畜産振興に寄与することを使命に、昭和30年に社団法人岡山県畜産会として発足し、平成15年には岡山県肉畜価格安定基金協会及び岡山県家畜畜産物衛生指導協会と合併、平成24年に一般社団法人岡山県畜産協会に改組された畜産専門の指導機関です。

今日の世界的な温暖化等による異常気象、ウクライナ・ロシアでの戦争、トランプ米大統領による強権的な関税政策（ディール）など、先行き不透明な社会情勢の中、畜産業においては、農山村地域の高齢化や人口減少による担い手不足、輸入配合飼料や輸入乾牧草、燃油・諸資材価格の上昇など生産コストが増大し、物価高騰による消費量の落ち込みもあり、再生産と持続的な経営が可能となる所得の確保が困難な状況にあります。

このため、当協会としては、国、県をはじめ、農畜産業振興機構や中央畜産会、地方競馬全国協会の補助事業等に積極的に取り組み、家族経営を中心とした畜産経営の安定強化を図ってまいります。

特に、自給飼料の増産支援、コントラクター組織の強化を支援するとともに、労働負担軽減対策など効率的な生産体制を推進、ワクチン接種や適切な飼養衛生管理指導を通じて家畜伝染病や疾病による損耗防

止など、生産性の向上による収益性の向上を一層進めてまいります。

また、畜産経営の持続的な発展を図るためには、輸入原材料を使用した他の製造業とも同様、生産コストに見合う価格への転嫁、利益分配が不可欠であり、適正な価格形成を後押しする環境が整えられるよう国など行政機関、関係団体とも連携してまいります。

畜産業は、国民生活に欠かせない食料の安定供給はもとより、農山村地域の活性化、環境維持にも不可欠であるという理念のもと、関係の皆様と連携強化を図りつつ、畜産の発展に全力で取り組んでまいりますので、ご支援とご協力をお願いいたします。

出身：岡山県倉敷市

年齢：66歳

資格：獣医師・総括畜産コンサルタント

趣味：里山散策・生き物観察

秘湯巡り・飲み会

〔酪農・肉用牛施策〕

岡山県の酪農・肉用牛振興施策について

岡山県農林水産部畜産課

本県における農業産出額は1,772億円（令和5年）で、そのうち生乳は144億円、肉用牛は110億円を占める重要な産業です。

県内における乳用牛の飼養動向は、畜産クラスター事業等の活用により農家の規模拡大が進み、1戸あたりの頭数は増加していますが、生乳生産量は離農等の影響で減少傾向となっています。（表1）

表1 県内における乳用牛の飼養動向等

	飼養戸数 (戸)	飼養頭数 (頭)	1戸あたりの 飼養頭数 (頭)	生乳生産量 (t)
R4	207	16,800	81.2	113,870
R5	192	16,000	83.3	109,144
R6	181	15,400	85.1	106,744

（農林水産省統計）

また県内の肉用牛飼養農家戸数は、特に20頭未満の小規模経営を中心に離農が進んでいます。（表2）

表2 県内における肉用牛の飼養戸数と頭数

	飼養戸数 (戸)	飼養頭数 (頭)	繁殖雌牛 (頭)
R4	406	34,900	5,600
R5	378	35,100	5,470
R6	363	35,500	5,470

（農林水産省統計）

飼料費等の高騰による生産コストの高止まりなど、畜産を取り巻く情勢については厳しい状況が続いています。酪農では飲用乳価がこの8月から4円/kg値上げされますが、牛乳・乳製品の需要減少が懸念されており、消費拡大が課題となっています。肉用牛においても、畜産物消費の減退による枝肉価格の低迷や和子牛価格の下落により、生産基盤の弱体化が危惧される状況です。

そのような中、このたび農林水産省から「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」が示されました。今後基本方針に基づき、本県の酪農及び肉用牛生産の

目指すべき姿を描く、地域の実情に即した県計画を策定します。

県計画では、中長期的な酪農及び肉用牛生産の発展を見据え、関係機関と連携して生産性の向上等により畜産物の安定供給を図るとともに、担い手育成、消費拡大等にさらに力を入れて取り組んでまいります。

ここでは今年度、県が実施している事業や取組を紹介します。

I 酪農振興事業施策

1 主な県事業

(1) 持続的酪農支援事業【拡充】

飼料等の価格高騰により新たな投資が難しい状況にある中、生産性の維持を図るため、施設・機器の整備、補改修や生産性の向上に資する新技術の導入を支援し、持続可能な酪農を推進します。

内容：①施設・機器の整備・補改修

生産性向上、県産飼料の利用、アニマルウェルフェアへ配慮した家畜の飼養管理向上のための施設の補改修及び機器整備の取組を支援

②暑熱対策用の施設整備・資材購入

暑熱対策に必要な施設の整備・補改修、機械装置及び資材導入を支援

③新技術の導入

簡易妊娠診断（PAG検査）の導入支援

④研修会の開催

期間：令和5年度～7年度

(2) 乳用牛群総合改良推進事業

牛群検定及びゲノム検査の推進により

乳用牛の改良に努め、低コストで高品質な生乳生産による足腰の強い経営体の構築を図ります。

内容：①牛群検定普及定着のための研修会や農家指導、優良農家表彰等の実施

②円滑な牛群検定の推進、AT法の導入による牛群検定の効率的な実施、ゲノム検査を活用した効率的な牛群改良の推進



写真1 令和7年度岡山県乳用牛群検定審査受賞式
(令和7年6月23日 津山市内)

(3) 「みんなの牧場へ」ステップアップ事業
将来にわたって、公共育成牧場の機能の維持・存続を図り、畜産農家の負担軽減を推進します。また、公共育成牧場及び県内の牧場が食育の場として地域貢献することにより、畜産業の理解醸成を図ります。

内容：①公共育成牧場機能強化のための施設等の整備・改修、草地の整備、衛生対策の向上等

②牧場体験等の実施に係る訪問者用の衛生対策設備等の整備



写真2 育成牛舎の整備(令和6年度 高梁市内)

(4) 未来へつなげ！蒜山ジャージー酪農基盤強化事業【新規】

蒜山地域のジャージー酪農の持続的な発展のため、酪農家が安心して生乳生産できる基盤づくりとジャージー製品の出口戦略への取組を支援します。

内容：①ゲノム検査の推進及び優良後継牛確保

②ジャージー製品の販売強化

期間：令和7年度～9年度

(5) 衛生検査事業



写真3 乳汁検査

関係機関が一体となり、衛生的な搾乳手技や搾乳機器の管理等の指導を行い、安全・安心な生乳の安定供給を図ります。

内容：①県下全戸のバルク乳検査の実施

②重点指導地区における搾乳立会指導、牛舎内環境の改善指導、乳房炎原因菌の同定等

③地域検討会、農家ミーティングの開催

2 消費拡大

毎年6月の牛乳月間にあわせて、おかやま酪農業協同組合から贈呈された県産牛乳や乳製品を有効活用した消費拡大キャンペーンをはじめ、岡山県畜産研究所に隣接する「まきばの館」での消費拡大の啓発活動などに取り組んでいます。

今後も11月1日に開催されるミルクフェア2025をはじめ、国や乳業団体等が実施する取組に歩調を合わせ、牛乳が持つ健康・機能面についてもPRしながら県産牛乳・乳製品の消費拡大に努めます。



写真4 県産牛乳等の贈呈
(令和7年6月6日 県庁内)



写真5 駅前での啓発活動
(令和7年6月6日 岡山駅)



写真6 おかやまミルクフェア2024
(令和6年11月9日 岡山市内)

3 支援体制

平成20年から、おかやま酪農業協同組合、岡山県農業共済組合、(一社)岡山県畜産協会及び岡山県で構成する「岡山県酪農経営支援チーム」では酪農家の経営向上を目指し、様々な活動を行っています。今年度の支援・指導方針では経営改善、生産性向上と乳質改善、県産飼料の普及推進及び担い手育成を重点取組項目とし、関係機関・部署の連携強化及び認識の共有を図り、地域チームでPDCAサイクルに沿った支援を行います。

また、事業を活用した暑熱対策の効果検証や改善データの収集を行い、地域への普及を図ります。

4 第16回全日本ホルスタイン共進会

●主催

一般社団法人 ホルスタイン登録協会

●開催期間

令和7年10月25日(土)～26日(日)

●開催場所

北海道勇払郡安平町

北海道ホルスタイン共進会場

乳牛のオリンピックとも称えられる全日本ホルスタイン共進会の開催までいよいよ3カ月を切りました。乳牛が健康で長持ちするために必要な体型の改良度合いを比較展示するために各都道府県を代表するホルスタイン種371頭、ジャージー種32頭が一堂に集まります。岡山県からはホルスタイン種6頭、ジャージー種5頭が出品されます。

県ではおかやま酪農業協同組合が主体となり、岡山県出品対策協議会で出品対策に取り組んでいます。現在、地域推進班による巡回を通して出品候補牛が選定されており、最終選抜を9月26日(金)に開催される岡山県畜産共進会(乳用種牛の部)で実施します。

本共進会において、出品者の努力の結晶ともいえる牛たちが素晴らしい成績を収めることができるよう、地域全体で応援し、一緒に大会を盛り上げていきましょう。



写真7 全共ポスター

Ⅱ 肉用牛振興事業施策

1 主な県事業

(1) 肉用牛広域後代検定推進事業

受精卵移植技術を活用し、優良牛群の維持確保を図るとともに、後代検定により精度の高い育種改良に取り組み、産肉能力の高い種雄牛を作出します。

内容：①農家の優秀繁殖雌牛からの採卵等

②消費者ニーズに合った「おいしい」和牛肉への改良

(2) 伝統の「岡山和牛」再発見事業【拡充】

岡山の血統を受け継ぐ、地域の特色ある繁殖雌牛の保留を推進します。

内容：①指定交配助成：1万円以内／頭
系統雌牛に県種雄牛を指定交配で生まれた産子について助成します。

②雌牛保留助成：5万円以内／頭
系統雌牛の遺伝子を受け継ぐ岡山県種雄牛産子の繁殖雌牛として保留します。

期間：令和7年度～9年度

(3) 肉用牛生産条件特別整備事業

内容：①規模拡大等支援

肉用牛農家が経営規模拡大を行うために必要な施設機械等又は遊休農地を活用し放牧により省力的に繁殖牛を管理するための施設等の整備を支援します。(補助率1／3以内)

②新規就農者支援

和牛入門講座受講生（後述）等の肉用牛繁殖経営を新たに開始しようとする方に対し、繁殖雌牛の導入や経営開始に必要な施設、機械等の整備を支援します。(補助率1／2以内)



写真8 牛舎整備（令和6年度 高梁市内）



写真9 放牧場資材（令和6年度 高梁市内）

③生産性向上対策

繁殖成績向上のために行う代謝プロフィールテスト等の飼料管理改善に必要な検査を支援します。(補助率1／3以内)

岡山県農業共済組合等と連携し、血液分析結果と現状の飼養環境や飼料給与内容等から、総合的に牛群の栄養状態を診断します。その診断結果を踏まえ、改善内容を検討します。

(4) 和牛担い手育成対策

(一社)岡山県畜産協会主催の「和牛入門講座」や「和牛未来塾」等を通じ、新規参入者や後継者等、新たに和牛経営を始める方を支援しています。受講生は新規参入者から後継者まで幅広く、研修をきっかけに交流も深まります。

2 支援体制

和子牛の資質向上を図るため、平成20年から、全農岡山県本部や農協、(一社)岡山県畜産協会、県で構成する「岡山和牛子牛資質向上対策協議会」では、肥育農家が求める発育良好な子牛(四ツ☆子牛^{よつぼし})の生産・増頭に向けた取組を行っています。四ツ☆子牛の認定業務のほか、各地域部会では、農協や県民局、家畜保健衛生所等が中心となり、指導農家を選出し、巡回指導等を実施しています。子牛の哺育育成技術の向上のほか、適正な繁殖管理により、分娩間隔の短縮や元気な子牛づくりを推進しています。

3 第13回全国和牛能力共進会北海道大会

●主催

公益社団法人 全国和牛登録協会

●開催期間

令和9年8月26日(木)～8月30日(月)

●開催場所 北海道十勝地方

種牛の部 音更町 肉牛の部 帯広市

●大会テーマ

「魅力発信 新しい力でつなぐ 和牛の未来」

●県スローガン

『晴れの和 笑顔の和 岡山和牛』

岡山県の全共推進母体である第13回全共岡山県出品対策協議会は、これまで受精卵移植などによる出品候補牛作出に向けた取組を行ってきましたが、現在の状況をご紹介します。

まず、肉牛の部は、6～8区からなる去勢肥育成績を競う部で、県内11農家が取組

予定です。令和6年11月中旬から12月中旬にかけて指定交配や受精卵移植を実施し、約140頭(雌除く)の受胎が確認されており、出生後は月1回の巡回で出品候補牛を選定していきます。

種牛の部は、1～6区からなる牛の発育、均称、品位及び資質を競う部で令和7年2月15日から、指定交配を中心とした出品候補牛の作出が始まっています。

特に、種牛性と産肉能力の両方を総合審査する6区総合評価群には県種雄牛の「藤初花」が出品牛として決まっています。発育良好で体積に富むとともに、種牛性を備えた岡山県らしい牛であり、産肉能力についても高レベルでまっています。

藤 初 花

ふじはつはな



登録番号: 黒原6244(84.0)
生年月日: 平成29年6月25日
生産地: 美 咲 町
生産者: 畜産研究所

血 統 構 成		
岡 山	兵 庫	美 高
50%	30%	20%

血統

藤 沢 茂 勝 [平 茂 勝一第20平茂
さわだ1の1の5 一糸藤(岡山)
藤平茂(事業団) 一平 茂 勝
ふくはな 5 一北国7の8
洋 茂 勝一茂 重 波
こ ざ 一糸 晴 波
としはつはな 5 千 代 板一北国7の3
としはつはな 一判 花

第59回 育 種 価					
枝肉重量	94.57 (A1)	バラの厚さ	1.02 (A3)	歩留基準値	2.30 (B2)
ロス率面積	21.66 (A1)	皮下脂肪厚	0.18 (C)	脂肪交雑	2.97 (3%)

写真10 藤初花

また、特別区(高校及び農業大学校)では、瀬戸南高校及び新見高校の県内2校で取組準備が進められています。

北海道全共の開催まで、2年余りとなり、8月下旬から肉牛の部の子牛が生まれてきます。畜産情勢が非常に厳しい中ですが、県下全体で出品対策に取り組んでまいりますので、皆様には、候補牛作出に向けご協力のほど、よろしくお願いいたします。

万全の体制で北海道に出陣できるよう、県下一丸となって取り組んでいきましょう！

〔特集〕

岡山県内酪農及び肉用牛繁殖経営の収益動向

一般社団法人 岡山県畜産協会 経営支援部

【酪農経営編】

はじめに

近年、飼料費や資材費の高止まりが続く一方で、乳価の値上げや副産物価格の回復など、酪農経営における好転要素も見られるようになりました。それでは経営の実際はどうか？県内の畜産農家にご協力いただき、定点観測を実施することで、経営推移の実態を分析しましたので、その結果を報告します。

なお、本調査は青色申告決算データをもとにしているため、育成牛の評価基準等、経営体ごとに異なる点があることをお断りします。

1. 令和4年から令和6年の推移

(1) 調査対象農家の概要

県内の過半を占めるホルスタインの家族

経営13戸について、令和4年から令和6年の経営データを取りまとめています。

飼養規模は、経産牛飼養頭数44.6頭で、おか酪の令和7年2月現況調査の乳用牛1戸当たり経産牛頭数平均44.4頭（大規模経営の多い備南地区を除く）と同程度となっています。

- また、(公社)中央畜産会の酪農経営類型
- 草地/耕地依存型…粗飼料DM自給率が40%以上
 - 流通飼料依存型…粗飼料DM自給率が40%未満の経営

に基づき、本調査では、経産牛1頭当りの飼料作付延べ面積が20a以上あれば、この基準を満たしていると仮定し、20a以上の農家を「飼料自給型」経営、20a未満の農家を「購入飼料依存型」経営と分類しています。(表1)

表1. 調査農家の経産牛飼養頭数規模の分布(戸)

	R4			R5			R6		
	全体	<20a	20a=<	全体	<20a	20a=<	全体	<20a	20a=<
80頭～99.9頭									
50頭～79.9頭	3	1	2	4	1	3	4	2	2
30頭～49.9頭	8	3	5	7	3	4	8	4	4
20頭～29.9頭	2	1	1	2	1	1	1		1
～19.9頭									
計	13	5	8	13	5	8	13	6	7

表2の経営概況の推移を見ると、令和4年から令和6年にかけて頭数はほぼ横ばいで、経産牛1頭当たりの産乳量は減少傾向にあります。飼料作付面積については、積極的に作付面積を増やす経営があった一方、人手不足や高齢化等により飼料生産を断念する経営もあり、平均としては作付面積減となっています。

また、生乳1kg当たりの乳代は、令和5

年より6.3円上がっていますが、経産牛1頭当たりの所得では、令和5年比15%の減となっていました。本調査を開始した令和2年からでは、令和4年の113,753円/頭が最も低く、底を脱したものと思われますが、1頭当たり所得が20万円を超えていた令和2～3年に比べると回復しきっていない状況です。

表2. 経営概況の推移

	R4	R5	R6	R6/R5
経産牛頭数	44.6 頭	44.3 頭	44.6 頭	100.7%
産乳量/頭	9,566 kg	9,374kg	9,252kg	98.7%
乳代/kg	127.63 円	140.64 円	146.95 円	104.5%
飼料作付面積/頭	31.6a	31.9a	30.9a	96.9%
所得/頭	113,753 円	173,082 円	147,134 円	85.0%

経営類型別に産乳量の分布を示したものが表3です。経産牛1頭当たり年間産乳量は、ほぼ8,000kg台～10,000kg台に分布しています。

平均乳量は購入飼料依存型経営が9,172kgであったのに対し、飼料自給型経営は9,320kgでやや多くなっていました。

表3. 経産牛1頭当たり年間産乳量の分布（戸）

1頭当り乳量階層	R4			R5			R6		
	全体	<20a	20a=<	全体	<20a	20a=<	全体	<20a	20a=<
11,000kg～	1		1						
10,000kg～10,999kg	3	1	2	3	1	2	4	1	3
9,000kg～9,999kg	5	2	3	5	1	4	4	3	1
8,000kg～8,999kg	4	2	2	5	3	2	5	2	3
7,000kg～7,999kg									
計	13	5	8	13	5	8	13	6	7

(2) 乳量低下の要因分析

ここで、表2で示した経産牛1頭当たりの産乳量減少の要因を考えてみます。図1を見ると、岡山県の平均気温は年々上昇していることが分かります。特に7～9月は牛が暑熱ストレスを感じ始める25℃以上を超えており、暑熱の影響は大きいと思われ

ます。

図2の相対湿度を見ると、8月が下がっており、令和5年より低く推移していますが、温湿度指数（THI※）で見ると、どの年も7～8月に危険域に入っており、特に令和6年は80を超えている状況です。

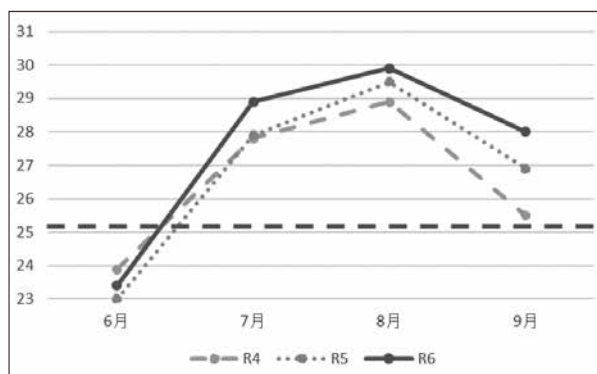


図1. 岡山県の日平均気温（夏期）

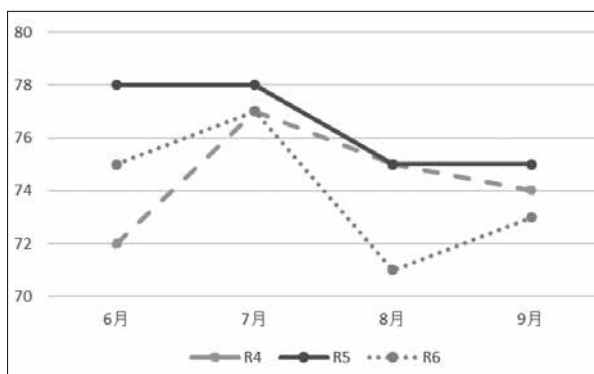


図2. 岡山県の相対湿度（夏期）

気象庁観測データより作成

表4. 岡山県の温湿度指数 (THI)

	6月	7月	8月	9月
R4	72.4	79.0	80.4	75.0
R5	71.5	79.3	81.3	77.3
R6	71.9	80.7	81.3	78.7

※THI = (0.8 × 気温 + (相対湿度/100) × (気温 - 14.4)) + 46.4
で計算。分類は以下のとおり

72 ≧ 弱いストレス

80 ≧ 中程度のストレス

90 ≧ 強いストレス

続いて、繁殖成績の推移を牛群検定の帳票から作成した表5を見ると、空胎日数が年々延長しており、目標とされる100日より長く、こちらも乳量に影響していると思われる。

また、分娩頭数は13ヵ月分の合計のため多く見えますが、経産牛頭数との比で見比べると低下しており、副産物収入の減にも影響を及ぼしています。

表5. 繁殖成績の推移 (牛検13ヵ月平均より作成)

	R4	R5	R6	目標
空胎日数	144.2 日	157.9 日	159.7 日	100 日
分娩頭数	39.8 頭	42.2 頭	38.9 頭	—
経産牛頭数	43.9 頭	42.5 頭	42.8 頭	—

(3) 所得の分布

次に、経営類型別の所得について見ていきます。表6では、令和6年は全体的に下位層に移行している中、飼料自給型は、中・高所得にとどまっています。

また、令和5年は全て黒字になっていたものの、令和6年は1戸が赤字となっています。

表6. 経産牛1頭当たり所得の分布 (戸)

1頭当たり所得	R4			R5			R6		
	全体	<20a	20a=<	全体	<20a	20a=<	全体	<20a	20a=<
400千円～				2	1	1			
300千円～399千円	2		2	1		1	2	1	1
200千円～299千円				1		1	3		3
100千円～199千円	4	1	3	4		4	5	2	3
0千円～99千円	5	2	3	5	4	1	2	2	
～0千円	2	2					1	1	
計	13	5	8	13	5	8	13	6	7

(4) 収支動向

令和6年のまとめとして、全体の収支状況を費目ごとにみていきます(表7)。収入は、各種緊急対策助成がなくなったことで令和6年の雑収入は令和5年比25.2%減となりました。子牛価格は回復傾向にあるものの、子牛・堆肥販売金額は5.6%減で

した。そして、産乳量は減少したものの乳価の値上げを受け、生乳販売金額が3.1%増で、収入合計は0.5%、金額にして8,893円減となりました。

費用については、資材等経費が上昇しているものの飼料費が2.7%減となり、費用合計は1.2%、金額にして17,054円増でした。

結果、経産牛1頭当たりの所得は令和5年から25,947円減り、15%減となりました。これは、令和4年の厳しい経営状況を受

け、県やおか酪等による助成があったことで、令和5年は経営が回復した結果とも言えます。

表7. 経産牛1頭当り収支動向（円）

科 目			区分	R4	R5	R6	R6/R5	
収入金額	販売金額	生乳	1	1,220,812	1,318,367	1,359,577	103.1%	
		水稻・野菜		2,307	1,500	4,150	276.6%	
		子牛・堆肥		93,424	63,999	60,395	94.4%	
	家事・事業消費金額		2	1,110	1,247	1,348	108.1%	
	処分益		3	20,665	22,258	26,508	119.1%	
	雑収入		4	184,846	212,706	159,206	74.8%	
	小計(1+2+3+4)		5	1,523,164	1,620,077	1,611,184	99.5%	
	農産物の棚卸高	期首	6	0	0	0		
		期末	7	0	0	0		
計(5-6+7)			8	1,523,164	1,620,077	1,611,184	99.5%	
経費	租税公課		9	27,105	25,737	30,635	119.0%	
	種苗費		10	4,970	7,400	8,785	118.7%	
	素畜費		11	3,144	10,918	5,800	53.1%	
	肥料費		12	9,164	12,165	13,003	106.9%	
	飼料費		13	771,124	771,709	751,114	97.3%	
	農具費		14	11,038	8,576	11,057	128.9%	
	農薬衛生費		15	41,233	39,849	38,896	97.6%	
	諸材料費		16	29,376	27,795	29,736	107.0%	
	修繕費		17	59,484	72,159	77,441	107.3%	
	動力光熱費		18	66,244	61,955	69,248	111.8%	
	作業用衣料費		19	1,868	1,269	1,805	142.2%	
	農業共済掛金		20	30,149	32,921	33,919	103.0%	
	減価償却費		21	197,134	203,121	201,491	99.2%	
	荷造り運賃手数料		22	112,358	119,386	117,485	98.4%	
	雇人費		23	15,460	21,487	35,065	163.2%	
	利子割引料		24	733	970	448	46.2%	
	地代・賃借料		25	29,917	26,860	27,677	103.0%	
	土地改良費		26	2,423	2,739	3,249	118.6%	
	種付・登録料		27	20,369	19,879	20,655	103.9%	
	通信費		28	3,240	2,549	4,603	180.6%	
	処分損		29	10,634	19,420	20,646	106.3%	
	預託費		30	29,957	37,149	32,161	86.6%	
	雑費		31	31,510	34,429	36,394	105.7%	
	小計		32	1,508,634	1,560,441	1,571,314	100.7%	
	農産物以外の棚卸高	期首	33	6,531	10,028	6,635	66.2%	
		期末	34	9,958	6,681	7,681	115.0%	
	経費から差し引く育成費用		35	95,796	116,792	106,219	90.9%	
	計(32+33-34-35)		36	1,409,411	1,446,995	1,464,050	101.2%	
	差引農業所得金額(8-36)		37	113,753	173,082	147,134	85.0%	
	生産原価(36-9-20-22-24-25-26-28-29-31)				111.6	119.3	122.0	102.3%
	総 原 価				147.3	154.4	158.2	102.5%
生乳1kg当り販売単価				127.6	140.6	146.9	104.5%	
生乳1kg当り生産原価				111.6	119.3	122.0	102.3%	
乳飼比				63%	59%	55%		
購入飼料費÷売上原価				66%	65%	63%		
購入飼料費÷生産費用				61%	59%	58%		

2. 令和7年の経営環境

次に、今年の経営環境について現時点のデータから見ていきます。

(1) 収入要因

①乳価

令和6年は据え置きで、令和7年は8月から飲用向け4円/kgの値上げが予定されており、生乳販売金額の増が予想されます。

②副産物価格

一般市の平均価格（図3）を見ると、全体的に回復傾向にあるものの、令和6年の

ヌレ子価格は令和4年並とはなりませんでした。その後も引き続き上昇傾向にあり、令和7年のホル雌ヌレ子は平均10万円を超えることも多くなっています。

交雑ヌレ子の価格推移に関しては、夏頃に価格が上がり、また下がるサイクルを繰り返しており、8月以降は下降していくと予想されます。とはいえ、ピークは過去3年より高い価格となっており、令和7年平均価格は令和6年を上回る値で着地するものと思われます。

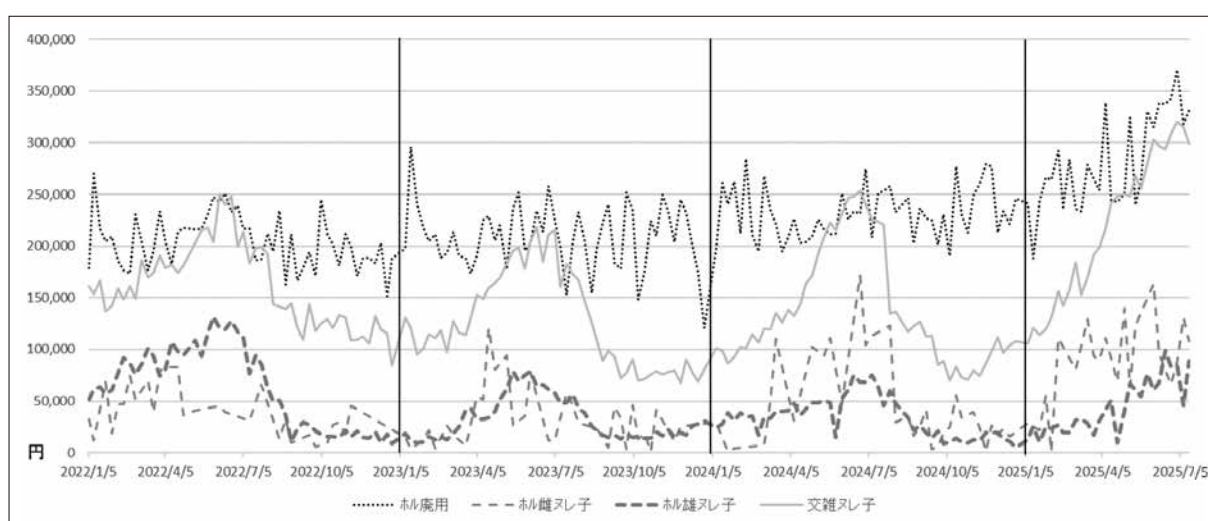


図3. 全農家畜市場（一般市）の副産物平均価格（税込）

	R4	R5	R6	R7（～6.17）
ホル廃用	202,694 円	210,441 円	232,580 円	282,646 円
ホル雌ヌレ子	44,739 円	38,133 円	40,968 円	84,913 円
ホル雄ヌレ子	60,416 円	27,874 円	31,620 円	39,514 円
交雑ヌレ子	154,932 円	119,681 円	127,469 円	205,129 円

(2) 費用要因

①飼料価格

おか酪SPにおける飼料価格の推移データによると、乾草は為替の上昇等により令和4年11月をピークに高騰し、その後は下落したものの、令和3年以前の水準までは戻らず、以降は横ばいで推移しています。配合飼料も、依然として高騰前までの価格には戻っていない状況ですが、令和5年以降、米国・南米産とうもろこしや大豆の豊作により低下傾向が見られます。

なお、配合飼料価格補填金は、令和5年度第4四半期以降（令和6年1月～）発動はありません。

②為替変動

飼料価格への影響の大きい為替相場の変動ですが、令和4年10月に米国の金利の上昇等により急速な円安となりました。その後も大きく変動し、令和7年7月現在は148円/ドル台で推移しています。中東情勢や米国の関税政策などの影響を受け、為替相場は今後も上下変動を繰り返しつつ緩やかな円高に向かうものと予測されています。

3. 酪農経営維持のために

飼料価格は横ばい、または下落傾向にあり、補填は発動しにくい状況が続いています。また、これまで経営を支えてきた緊急対策的な助成金も縮小傾向にある中で、酪農経営を維持していくには、乳価の値上げ分で収入の確保を目指す必要があります。

平均気温は年々上昇しており、暑熱対策が重要課題となっています。繁殖成績も下がっていることから、繁殖改善も含めた生産性向上の取組が求められます。

また、自給飼料生産への意欲はあるものの、労働力不足等により実施できていない農家がいることも課題の一つです。

令和6年の経産牛1頭当たり購入飼料費は下がっていますが、抑制しすぎると生産性にも影響するため、酪農経営支援チームをはじめ、関係機関が一体となって経費削減と生産性向上を両立させるための支援を推進していきたいと考えています。

【肉用牛繁殖経営編】

はじめに

肉用子牛価格は、平成24年度以降、繁殖雌牛の減少による子牛生産頭数の減少や枝肉価格の上昇に伴い高値で推移しました。

しかし、令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症による外食需要の低迷等により、枝肉価格が低迷していましたが、令和6年度後半よりやや回復傾向となり、それに伴い子牛価格も令和7年度以降、上昇傾向となっています。ただ、依然として飼料費等については、高止まりとなっており、厳しい状況であることには変わりありません。

このような中、当協会では、経営支援はもちろんのこと、今後の施策や支援方針につなげることを目的に、直近3年間の経営データを収集・分析しましたので、その結果を報告します。

なお、「酪農経営」同様、青色申告決算データをもとにしているため、育成牛の評価基準等、経営体ごとに異なる点があることをお断りします。

1 調査対象経営

本年度も3年間（令和4年、5年及び6年）の決算データがすべて存在する10経営（各年とも同一）について、分析可能な項目を比較しました。

表1のとおり、各経営の所在地は比較的分散しており、飼養規模も異なる経営体となっています。なお、平均飼養頭数は令和4年よりわずかながら減少傾向にありますが、ほぼ横ばいで推移しています。

表1 成雌牛飼養頭数の分布（単位：戸）

区 分	R4	R5	R6	備 考
50頭以上	1	1	1	地域（JA）別 びほく・新見：3戸 真庭：4戸 津山・勝英：2戸 その他：1戸
40頭以上50頭未満	1	1	1	
30頭以上40頭未満	0	0	0	
20頭以上30頭未満	2	3	3	
10頭以上20頭未満	5	4	4	
10頭未満	1	1	1	
合 計	10	10	10	毎年同一
平均飼養頭数	24.9	24.7	24.4	頭

2 繁殖経営における収益性

表2のとおり、成雌牛1頭当たりの所得は、令和6年が74千円で、前年比264%となりました。

経費のうち、全体の4割以上を占める飼料費は261千円で、前年比91%と減少しています。この背景として、令和4年に、ウクライナ情勢を受けシカゴ相場が上昇したこと等を背景に、配合飼料価格が高騰しま

したが、令和5年以降は、主産国である米国及びブラジルにおけるとうもろこしの豊作等により原料の国際価格が下落したことや為替の変動などを反映して、概ね低下傾向で推移している状況があります（農林水産省「飼料をめぐる情勢」より引用）。その他経費は横ばいか、やや増加していますが、経費全体に占める割合が大きい飼料費の減少により、経費合計は575千円で前年

比97%となりました。

一方、収入は、成雌牛1頭当たりの子牛販売金額が446千円で前年比95%となっており、昨年同様、消費の減退が引き起こす枝肉価格の低迷による購買意欲の低下が主たる要因です。

しかし、雑収入は、国（子牛補給金等）や県から補助金の交付があり、子牛価格の低下を補う前年比136%となっています。結果、収入金額合計は649千円で、令和4年と同じレベルになっています。

表2 概要及び収支動向等

項 目		単位	R4	R5	R6	R6/R5
集計対象件数		戸	10	10	10	
成雌牛飼養頭数平均		頭	24.9	24.7	24.4	99%
子牛販売頭数		頭	19.4	20.3	20.1	99%
成雌牛1頭当り販売頭数		頭	0.78	0.82	0.83	101%
子牛1頭当り販売価格		千円	673	574	540	94%
全農総合家畜市場平均価格		千円	654	537	509	95%
成雌牛1頭当たり	子牛販売金額	千円	525	471	446	95%
	雑収入	千円	89	101	137	136%
	収入金額合計	千円	649	621	649	105%
	飼料費	千円	254	288	261	91%
	経費全体に占める割合	%	46.4	48.7	44.8	92%
	農薬衛生費	千円	25	28	28	100%
	諸材料費	千円	26	21	22	105%
	動力光熱費	千円	25	24	25	104%
	荷造り運賃手数料	千円	29	27	25	93%
	経費合計	千円	548	592	575	97%
	所得	千円	101	28	74	264%
販売子牛1頭当たり生産原価		千円	576	585	565	97%
同 総原価		千円	701	720	697	97%
所得率		%	15.6	4.6	11.4	248%
補助金 入金後の所得金額				51	78	153%

上記記載の補助金 内容

- 肉用子牛生産者補給金制度
- 優良繁殖雌牛更新加速化事業
- 和子牛生産者臨時経営支援事業
- 優良和子牛生産推進緊急支援事業
- 岡山県和子牛生産者臨時経営支援事業

3 作付面積と飼料費及び所得の関係

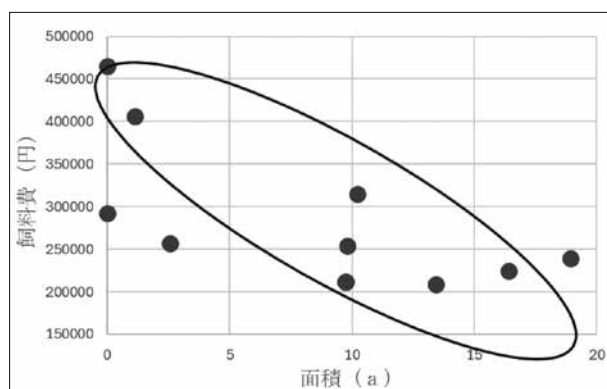


図1 作付面積と飼料費の関係

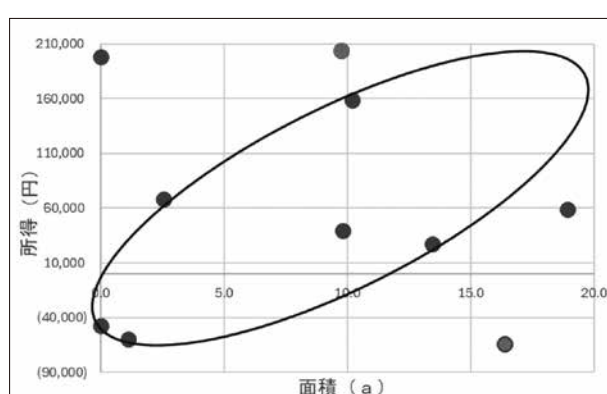


図2 作付面積と所得の関係

図1では、作付面積と飼料費の関係を示しています。飼料費が400千円以上の経営体は、購入飼料主体となっており、成雌牛1頭当たりの作付面積が大きいほど、購入飼料費が少ないことが伺われます。

図2では、作付面積と所得の関係を示しています。上記の要因が大きく影響するため、作付面積が大きい経営ほど、所得が大きい傾向にありますが、自給飼料の作付面積の確保が必ずしも所得上昇に連動していないこともわかります。

まず、自給飼料がないにもかかわらず所得が大きい経営は、購入飼料費に係る経費を上回る販売収入を得ており、血統や繁殖管理、育成技術などに圧倒的な強みを持っています。

一方、作付面積は大きいけど所得がマイナスの経営は、購入飼料費は少ないものの、子牛1頭当たりの販売価格が小さいことが大きな要因となっています。

自給飼料を確保することは、購入飼料費の削減には大いに有効ですが、初期投資が大きく、土地の確保や労働負担、繁殖管理や疾病予防が手薄になりやすいなど課題も多いため、経営負担のバランスを考慮する必要があります。

表3 成雌牛1頭当たり販売頭数の分布（単位：戸）

区 分	R4	R5	R6	備 考
1.0頭以上	2	3	1	ET活用
0.9頭以上1.0頭未満	1	0	2	
0.8頭以上0.9頭未満	2	3	3	
0.7頭以上0.8頭未満	3	3	3	
0.6頭以上0.7頭未満	1	0	1	
0.5頭以上0.6頭未満	0	1	0	
0.5頭未満	1	0	0	
平均販売頭数	0.78	0.82	0.83	頭
1経営当たり平均販売頭数	19.4	20.3	20.1	頭

4 成雌牛1頭当たりの子牛販売頭数と分娩間隔

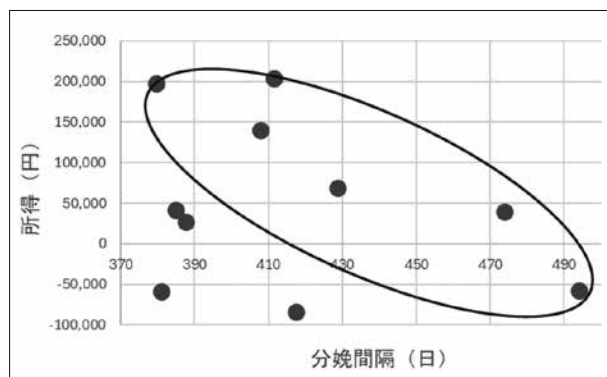
表3のとおり、1経営当たりの子牛販売頭数は令和4年よりやや増加しているものの、令和5年と比較し、わずかに減少しています。

ただ、平均飼養頭数が減少していることから、成雌牛1頭当たりの販売頭数は増加傾向となっています。

また、図3に示している分娩間隔では、370日以上380日未満の経営体がある一方、470日以上の経営が2戸あり、所得も低くなっています。1年1産を達成するための技術分析と課題解決の支援が必要と考えられます。

なお、分娩間隔は、令和6年に分娩した成雌牛の平均値であり、長期不受胎等で分娩がない場合は含まれないことや、出荷頭数は前年の成績が影響するなど注意が必要です。

図3 分娩間隔の分布



5 所得比較

表4は、所得上位3位（以下「ア」とする）までと所得下位3位（以下「イ」とする）までの経営体について比較です。

成雌牛1頭当たりの所得額は、「ア」が177千円、「イ」が-67千円で、244千円の差となっています。

同経費については、「ア」が545千円、「イ」が685千円で、140千円の差があります。うち飼料費は、「ア」が258千円、「イ」が343千円で、85千円の差があります。飼料費に

ついては、作付面積が多くなくても低く抑えられている経営もあり、メリハリのある適切な飼料給与、無駄のない飼養管理を行うことによって削減は可能であると考えています。

分娩間隔は「ア」が404.1日、「イ」が432.4日で、その差は28.3日となっており、子牛出荷までの経費が増加することとなります。また、年間販売頭数の減少により経営悪化の要因となります。

加えて、子牛の発育が遅れることによる育成期間の延長も収益性の低下の一要因と考えられます。図4のとおり、一日当たりの増体重（以下、「日増体重」という）が大きいほど販売価格も高くなり、子牛市場における購買基準としても日増体重は重視されるため、子牛の管理には細心の注意が必要です。

同収入のうち子牛販売金額については、「ア」は520千円、「イ」は457千円となり、1頭当たり63千円高値で取引されています。本県の推奨子牛である「おかやま四ツ☆子牛」の認定率においても、「ア」は41.1%、「イ」は19.0%となっており、良い子牛作りは価格に反映される傾向にあることが伺われます。

一方、日増体重が大きく、四ツ☆子牛として認定されても販売価格に反映されない事例もあることから、次の段階として優良成雌牛群の整備などが必要となってきます。

図4 日増体重と販売価格

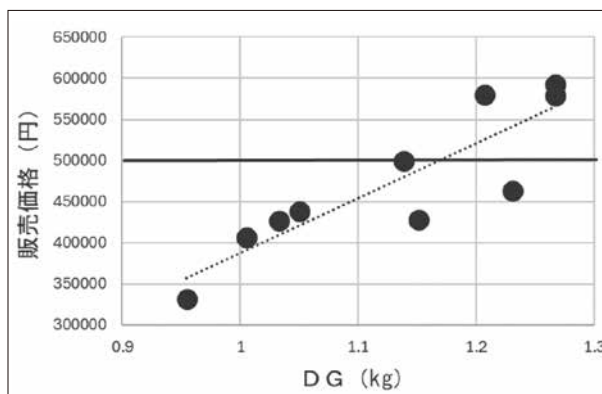


表4 経営比較

項 目		単位	所得上位3位 (ア)	所得下位3位 (イ)	(ア) - (イ)
成雌牛飼養頭数		頭	28	15	
子牛販売頭数		頭	24	14	
成雌牛1頭当り販売頭数		頭	0.86	0.97	
子牛1頭当り販売価格		千円	604	473	131
成雌牛1頭当たり	子牛販売金額	千円	520	457	63
	雑収入	千円	155	131	24
	収入金額合計	千円	722	618	104
	飼料費	千円	258	343	-85
	農業衛生費	千円	35	33	2
	諸材料費	千円	11	17	-6
	動力光熱費	千円	27	24	3
	荷造り運賃手数料	千円	20	30	-10
	経費合計	千円	545	685	-140
	所得	千円	177	-67	244
販売子牛1頭当たり生産原価		千円	489	599	-110
同 総原価		千円	632	709	-77
所得率		%	24.5	-10.8	
分娩間隔		日	404.1	432.4	-28.3
四ツ☆子牛適合率		%	41.1	19.0	22.1

6 収支予測

表5に令和7年の子牛市場価格を踏まえ、令和7年における経営収支を試算しました。

R7①は、年間の市場平均価格が令和7年1～6月期相当の612千円とした場合、令和6年全農総合家畜市場平均価格比($611,690円 \div 509,099円 \times 100 \div 120.15\%$)を子牛1頭当り販売価格へ反映させ(539,718

円 $\times 120.15\% = 648,479$)、これに過去3年間における成雌牛1頭当たりの販売頭数の平均値を乗じたところ、成雌牛1頭当たりの子牛販売価格は525千円となります。また同雑収入は、子牛補給金などが発動されないと考えられ、その他補助金収入の過去3年間平均より99千円と想定したところ、収入金額合計は675千円と予測されます。

一方、同経費合計は、備考に記載の内容

で想定したところ579千円となり、同所得は96千円と厳しい状況には変わりありませんが、令和6年より上昇することが予測されます。

また、R7②は、調査対象経営とは異なる

り、子牛1頭当たりの販売価格が市場平均価格とした場合ですが、成雌牛1頭当たりの所得が55千円となり、経営継続は極めて困難な状況が予測されます。

表5 収支予測と規模別総所得

項 目		単位	R6	R7①	R7②	備考
全農総合家畜市場平均価格		円	509,099	611,690	611,690	1～6月平均
子牛1頭当り販売価格 (A)		円	539,718	648,479	611,690	①R6対市場価格比 ②市場平均価格
成雌牛1頭当り販売頭数 (B)		頭	0.83	0.81	0.81	R7 過去3年平均
成雌牛1頭当たり	子牛販売金額	円	445,517	524,837	495,063	(A) × (B)
	雑収入	円	141,798	98,804	98,804	補給金等考慮
	収入金額合計	円	653,892	675,424	632,901	上記以外平均
	飼料費	円	260,718	260,718	260,718	令和6年値
	農薬衛生費	円	27,757	27,757	27,757	〃
	諸材料費	円	22,183	22,183	22,183	〃
	動力光熱費	円	24,865	24,865	24,865	〃
	荷造り運賃手数料	円	25,425	29,736	28,049	価格連動
	経費合計	円	575,003	579,344	577,657	価格変動考慮
	所得	円	78,889	96,080	55,244	
販売子牛1頭当たり生産原価		円	564,868	583,678	581,978	
販売子牛1頭当たり総原価		円	696,619	675,453	673,486	
所得率		%	12.1	14.2	8.7	
所得 (30頭規模)		円	2,366,670	2,882,400	1,657,320	単純計算
所得 (50頭規模)		円	3,944,450	4,804,000	2,762,200	単純計算

7 肉用牛繁殖経営を維持するために

令和2年10月以降、飼料価格やその他資材の高騰、その後の高止まりに圧迫された経営状態で迎えた令和5年は、さらなる子牛価格の下落により、成雌牛1頭当たりの所得は51千円（補助金補正後）と厳しい状況となっていました。令和6年においても、所得はあがりましたが、子牛1頭当り販売価格は下がっており、厳しい状況であることには変わりありません。

ただ、このような状況においても、分娩間隔の短縮や事故の低減、子牛の資質向上を継続的に取り組んできた経営は、足腰が強く、一定の所得を確保しています。

経費において、大きな割合を占める飼料費の削減は、経営を安定させるためには、最重要課題といえます。自給飼料率の向上や県産粗飼料の活用による低コスト化は、必須項目です。県産粗飼料の活用については、個別での取り組みというよりも、業種を超え、耕種農家とも連携し、地域での

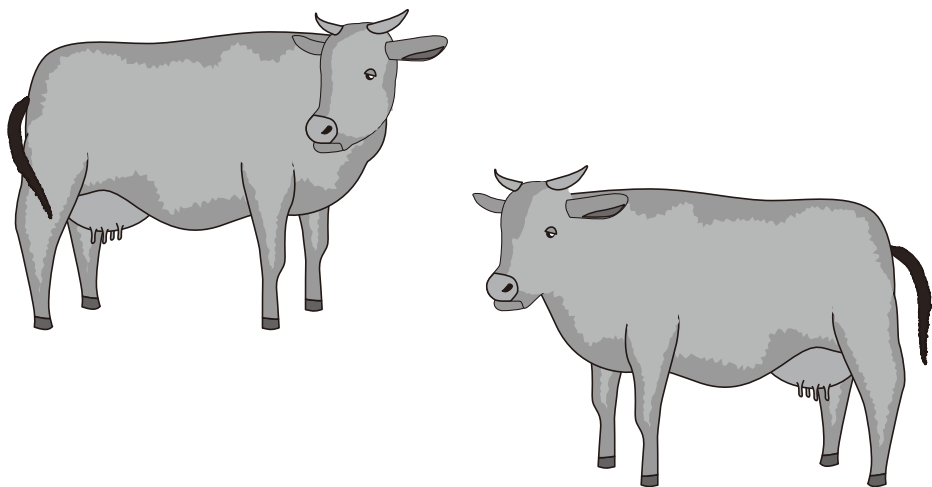
取り組みが必要です。ここには、関係機関の支援が不可欠になるのではないのでしょうか。

一方、収入においては、「良い子牛をいかに多く販売するか」が重要です。

当県には、「岡山和牛子牛資質向上対策協議会」が設置されています。それぞれの地域部会による巡回指導により「おかやま四ツ☆子牛」の認定率も上昇し、効果的な取り組みとなっています。今後も巡回指導を通じて、それぞれの農家の課題にあった哺育育成技術の向上と適正な飼育管理の指導、さらに、育種価やゲノミック評価を活用した優良成雌牛群の整備も必要と考えます。

それぞれの専門性を活かし、関係機関が一丸となって、この難局に向き合い、各種対策に真摯に取り組んでいくことは言うまでもありません。

今一度、基本に立ち返り、できることから始めてみませんか。



乳牛の暑熱対策 ～夏季の繁殖成績を落とさないために～

岡山県農林水産総合センター畜産研究所 酪農研究グループ

【はじめに】

近年、35℃以上の猛暑日の日数が増加しており、日最低気温が25℃以上の熱帯夜も多い状況です。

ホルスタイン種の適温域は0～20℃とされています。特に乳量が多い高能力牛は基礎代謝量が多く、暑熱の影響を受けやすいため、夏季の牛舎環境は厳しいものとなっています。

今回は、夏季に繁殖成績を落とさないために当所で取り組んでいる暑熱対策を紹介します。

【対策1 栄養管理】

搾乳牛の繁殖成績は栄養状態に左右されるため、当所では暑熱下に食欲を落とさせない栄養管理を意識し、3月から梅雨入りまで炭酸カルシウムを増給しています。カルシウムは筋肉や消化管の動きを左右する重要なミネラルであることから、夏本番を迎える前にしっかりと胃腸のコンディションを整えるよう心がけています。

他にもPMRの二次発酵による食欲低下を防ぐために、給与回数を朝夕2回から1回増やして朝、昼、夕の3回に分けて行っています。

【対策2 畜舎環境整備】

牛舎には送風機と細霧装置を設置し牛舎温度の上昇を抑えるようにしています。

送風機にホコリがついていると風速が弱まるため、毎年4月ごろに清掃を行い、夏

に備えています。清掃実施の前後で風量を比較すると、清掃前は2.3～3.1m/秒、清掃後は2.9～3.4m/秒で約17%改善されました。

細霧装置は夏前に試運転を行い、詰まったノズルがあれば洗浄を行っています。

牛舎内にはヒートストレスメーターを設置し、牛舎内温度20℃以上で送風機を回し、湿度が低い日は細霧装置を併用しています。

また牛舎の西側にはゴーヤを植えて緑のカーテンを作り、西日が直接牛舎に入らないようにしています（写真1）。

今年度は牛舎の屋根にドロマイト石灰を散布し、屋根裏温度の上昇を抑える対策も行っています。



写真1 緑のカーテン

【対策3 飲水量の確保】

搾乳牛の1日あたりの飲水量は乳量のおよそ3倍であり、夏季はさらに飲水量が増加します。

牛が清潔な水を飲めるよう、1日2回は水槽を清掃し、水槽内の汚れを防ぐことを心がけています。

【対策4 乳温による個体管理】

搾乳ロボットでは乳温が確認でき、それにより牛の体温を知ることができます。

夏季は朝一番に乳温データのチェックを行い、乳温が高い個体は優先的に毛刈りを行い、定期的に牛体を洗浄する等してリフレッシュさせています。

乳温は気温の上昇とともに夏季に高くなります（図1）。3月や4月からすでに乳温が39℃を超える個体もいるため、春から暑熱対策を行う必要があります。

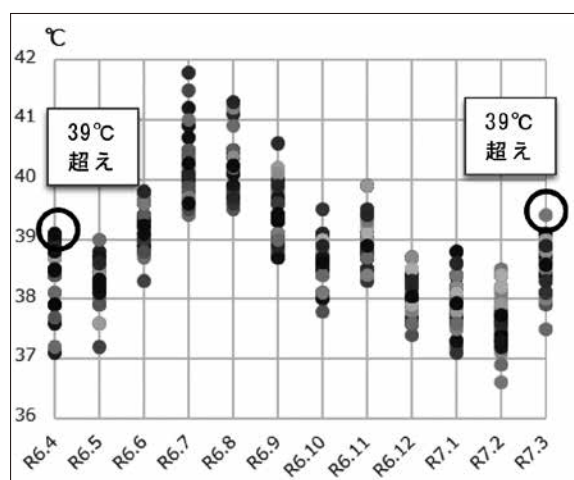


図1 月ごとの乳温の推移

【対策5 受精卵移植の積極的な活用】

当所ではホルスタイン種と黒毛和種から毎月採卵を実施しています。特に夏季は新鮮卵での受精卵移植を積極的に活用し、受胎率の向上を目指しています。

搾乳牛は暑熱ストレスを受け始めると、反芻時間の低下や採食量の減少が見られる個体が散見されます（図2）。採食量の減

少によって搾乳牛がエネルギー不足に陥ると卵子の発育にも影響が出てきます。卵子は排卵されるまでに2～3か月かかることから、8月に暑熱ストレスの影響を大きく受けた場合は10月～11月に排卵される卵子の質に影響します。そのため、涼しくなる秋頃まで受精卵移植を積極的に活用しています。

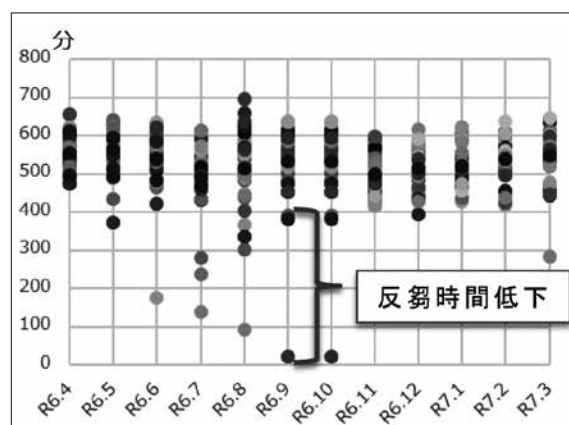


図2 月ごとの反芻時間の推移

【対策6 残暑対策】

過酷な時期を乗り越えて秋になると搾乳牛の採食量は増えてきて乳量が増加してきます。このタイミングでも炭酸カルシウムの増給を行い、潜在性低カルシウム血症の予防とともに、夏季の採食量の減少によりエネルギー不足となった体と弱った胃腸を早く回復できるようにしています。

【最後に】

当所での様々な暑熱対策について紹介してきましたが、基本的な取り組みを適切なタイミングで正しく実施することで繁殖成績の向上だけでなく、乳量の増加や乳成分の改善といった様々な結果を畜主に返してくれます。

今年も厳しい暑さが続いています。頑張っ

〔県民局だより〕

酪農家の手がけるジェラート・チーズを 食べに行こう！

岡山県備中県民局畜産第一班

今年の中国地方は、平年より22日、昨年より24日早い梅雨明けとなり、長い夏となりました。備中県民局畜産第一班から管内酪農家のジェラート店とチーズ工房をご紹介しますので、夏の疲れを癒しにぜひお出かけください。

徳山牧場アイス工房

所在地：井原市美星町西水砂45-1

HP：https://www.tokuyama-boku.jp

管内で一番早く、平成21年4月に井原市美星町にある星の郷青空市 美星産直プラザで開店されました。

イチ押しのジェラートを伺うと『ミルク』と即答されました。

徳山牧場は、ロボット搾乳による省力化で生まれた時間を自給飼料生産に活用し、農薬や化成肥料を使わない牧草生産に加え、昨年からは耕種農家と連携して稲WCSや飼料用麦の収穫と利用に取り組まれています。

また、配合飼料の約半分も飼料用米やおからなどの地域資源で置き換えられています。

お店を訪問した5月には美星町産晴苺のジェラートが並んでおり、旬に合わせて美星町産の桃、ぶどう、栗のジェラートも作られるそうです。



シーサイドファームなんば牧場アイス屋さん

所在地：岡山県倉敷市下津井5-2388-11

インスタグラム：@nambabokujyou_ice

平成31年1月に牧場に隣接した瀬戸内海を見渡せる高台に開店されました。



瀬戸内海を見て育った牛から夜に搾った新鮮な生乳をすぐに加工されています。



イチ押しは『ミルク』と、ここでしか味わえないジェラートで下津井にある名曲喫茶 時の回廊のコーヒー豆を練りこんだ『コーヒー』です。この他にも『下津井の塩』、『倉敷はっか』など地元食材を使ったジェラートや岡山県立倉敷鷺羽高等学校と共同で商品開発したジェラートも作られています。

また、ゴールデンウィークと夏休みに期間限定で販売されるソフトクリームは、なめらかな口当たりで、ジェラートとはまた違うおいしさです。

今年から、畜産関係者におなじみの田倉牛神社の売店でもカップジェラートを販売されています。

ジェラテリアLuho

所在地：笠岡市拓海町161-3

Instagram：@gelato_luho

令和5年11月、株式会社Farm Luckyhonの吉本さん夫妻が消費者の声を直接聞きたい、牛乳に良いイメージを作りたいという思いから、笠岡湾干拓地に隣接する住宅街でジェラート店を開店されました。



イチ押しの『ミルク』は、ホルスタイン種だけでなくジャージー牛の生乳から作られる日もあるということで、どちらがお店に並んでいるかは訪れてみてのお楽しみです。メニューの考案は妻の裕香さんが担当されており、その日のラインナップは、『ミルク』、『チョコ』、『いちご』を基本に日替わりになっています。

株式会社Farm Luckyhonは、ソルゴーとイタリアンライグラスを生産され、現在、搾乳牛の約80%の粗飼料は自給しており、今年中には100%にされるということで、今後の味の変化が楽しみです。

店内には、吉本さんが育てた愛牛の写真も飾られています。



倉敷チーズ工房ハルパル

所在地：倉敷市玉島陶5423-11

Instagram：@kurashiki.cheese



三宅牧場に隣接して、令和3年5月に娘の春香さんがチーズ工房を開店されました。

三宅牧場は、中国生乳販売農業協同組合連合会の中国地区良質生乳出荷者表彰で優良賞を複数回受賞されています。その生乳を原料に週3～5回、お客様からの注文を受けてチーズを生産されています。

イチ押しで一番人気のチーズはフロマージュ・ブランで、食べると牛乳の風味が口の中に広がるフレッシュなおしさで、フロマージェジャパン2024第1回アルティザンチーズアワードで優秀賞を受賞しました。

また、燻製スカモルツァ（モッツアレラを数日風乾させて桜チップで燻製）は、ジャパンチーズアワード2024パスタフィラータ／バラエティ部門で最優秀部門賞を受賞し、本年11月にスイスベルンで開催されるワールドチーズアワードに出品予定です。

工房に併設されているお店は牛グッズなどでかわいく飾られており、予約商品をお渡しするスペースとなっています。この他、オンラインショップや取扱店（産直市場ほっけえ〜きて屋、おかやまコープ東川原店、大福店、大野辻店、倉敷フルーツヴィレッジ）でも販売されています。また、イベントへも出店されますので、出店情報はInstagramでぜひチェックしてください。



おわりに

消費者が小売店などで入手できる牛乳は、合乳がほとんどで、酪農家ごとの牛乳の味を味わえる機会は少ないのが現状です。

酪農家の皆さんが作られるジェラートやチーズは、牧場ごとの味の違いを感じられる貴重な商品です。

また、季節ごとに牛乳の味も一緒に使う食材も変化していきますので、年間を通して、その時にしかない味を楽しんでください。

〔共済フレッシュさん〕

獣医師になって三年終えて

備中家畜診療所備北出張所 新里 実子

皆様こんにちは。備中家畜診療所備北出張所の新里実子と申します。獣医師になってから三年半程経ち、もうフレッシュではないかもしれませんが、この場をお借りして自己紹介させていただきます。

私は愛知県で生まれ育ち、大学は北海道で、就職で岡山に来ました。北海道の冬の寒さと本州と同じくらいの夏の暑さなどの気候の厳しさに耐えかね、就職は暖かいところでしょうと思い岡山に来ました。大学時代は微生物に興味があったものの研究は肌に合わず、研究室で生産動物を扱っていたこともあり、自然と産業動物獣医師になりました。研究室時代は研究室の垣根を越えて、他の研究室の診療に随行したり、手術見学や解剖など好奇心の赴くままに見たいもの、やりたいことが叶う環境で、今思えばとても恵まれていました。

入社してから一年目はとにかく道を覚えるのに精いっぱいでした。ペーパードライバーだったため、診療よりも運転のほうが怖く、山道で迷ったり、住宅街で迷ったりしていました。現在いる備北出張所で担当させていただいているエリアは3年目ということもあり、我が庭ぐらい熟知しております。

さて、堅い話はさておき、私の宝物についてお話させてください。私の宝物、それは二匹の猫です。グレーに斑点模様の猫がおもち（推定二歳、避妊雌）、黒猫があずき（一歳、避妊雌）です。どちらも拾ってきた猫ですが、偶然にも地元が隣でした。おもちが美咲町のとある牧場で私に一目惚れされ、あずきは久米南町で保護され家に来ました。おもちは人格者であずきが家に来たばかりの頃は、ちょこまかとじゃれあってくるあずきを受け入れ、あずきが避

妊手術後ぐったりしているときは、ごはんを残し、遠くから見守り、よくできた猫だなと思っていました。あずきはやんちゃで一匹でロフトの梯子に登ったり、おもちゃを投げさせて取りに行ったり、騒がしい猫です。人格者でおしとやかなおもちとやんちゃなあずきですが、とても仲が良く猫同士でくっついて毛繕いしあっているのをよく見かけます。ちなみに二匹ともふわふわもちもちの手触りの良い毛並みです。

おもちが一匹の時もとても可愛いと思っており、癒されてましたが猫が二匹いると相乗効果で可愛く、見ていて飽きないし、可愛いし癒されます。この二匹を養うために頑張ろうと思えてきます。



写真左があずき、右がおもちです
親バカですが二匹とも美人ですね。

最後になりますが、私の駄文をお読みいただきありがとうございました。獣医師となり三年半たちましたが、まだまだ未熟で失敗することも多く、自分を情けなく思う日も多いですが、牛と皆様のお役に立てるよう研鑽を積んでいきます。

〔畜産現場の声〕

一貫経営で挑む持続可能な牛づくりの道

農事組合法人伍協牧場

1. 伍協牧場の歴史

農事組合法人伍協牧場は、昭和48年に5戸の農家で飼養頭数約300頭で立ち上げました。その後、平成18年には離農した畜産農家の牧場を買い取り、第2農場として運営を開始。随時肥育牛の増頭を実施し、飼養頭数は830頭に拡大しました。さらに平成26年に大きな転機が訪れます。勝英農業協同組合（現・晴れの国岡山農業協同組合）の和牛繁殖施設および肥育施設を借り受け、それぞれ繁殖センター、第3農場として運営を開始。繁殖部門に参入し、一貫経営に移行しました。

現在は3戸の農家で肥育牛約1,000頭、子牛約220頭、繁殖牛約280頭を20名で飼育しています。

伍協牧場の最大の特徴は、組合員3農家（㈱國富、花房芳視、㈱OriginalQuchi）の協業経営です。各農家はそれぞれ独立した農場経営をおこなっており、蓄積されたデータや飼養技術を共有して伍協牧場の運営に生かしています。

2. 肥育部門の取り組み

高品質な牛肉を生産するため、個体ごとの健康管理を日々徹底しています。肥育和牛全頭の血液検査を実施し、その結果を飼養管理の改善に活かしています。また、U-motionを用いた24時間動態観察により得られるデータを活用し、疾病の予防的措置も実施しています。

3. 繁殖部門の取り組み

発情発見には「牛歩」、分娩監視には「牛温恵」、牛群管理には「Farm note」などのICTツールを活用して、分娩事故の軽減や分娩間隔の短縮に努めています。

また、年1回の代謝プロファイルテストを通じて、飼料メーカー、獣医師、家畜保健所と共に現場で牛を観察し、検討会を実施することで繁殖成績の向上を図っています。

さらに採卵にも積極的に取り組み、自

家F1牛の借り腹や地域の酪農家へ受精卵移植実施。「母子同居牛群管理」によって、省力化と哺育増体の改善を進めています。

4. なぎビーフの取り組み

勝英地域では「なぎビーフ」のブランド化に取り組んでおり、専用配合飼料に加え、仕上げ期に地元特産の黒大豆（作州黒）のきな粉を給与することで差別化を図っています。

伍協牧場は、なぎビーフ全体の7割を出荷しており、ブランド化推進の中核を担っています。近年は輸出にも力を入れており、EU・カナダ・シンガポール・タイなどへの輸出実績があります。

5. 耕畜連携の取り組み

伍協牧場では、稲ホールクロップサイレージ（稲WCS）を肥育牛に給与する取り組みを早期から実施しています。奈義町と津山市産の稲WCSを積極的に購入し、地域の水田で生産された飼料を活用しています。

また、牧場で生産された良質な堆肥を地域の耕種農家へ供給しています。特に稲WCSを生産した水田への還元を通じて、地域内での資源循環を実現しています。袋詰めされた堆肥は直接販売の他、ホームセンターなどでも広く販売しています。

6. 消費者との交流

昭和60年より“おかやまコープ”と連携し、産直事業に取り組んでいます。生協組合員や消費者の牧場見学を積極的に受け入れ、交流を深めながら生産現場の情報を発信しています。

7. 今後の取り組み

現在、伍協牧場ではJGAP認証取得に向けた取り組みを進めています。消費者や取引先の信頼を確保するためだけでなく、持続可能な農業経営を実現するため、従業員一丸となって取り組んでいきます。

残暑お見舞い申し上げます



オールインワンが自信を持ってお届けします



★**ついに登場!**

乾乳から分焼へ
**移行期
サプリメント**



★**日本初!**



**BOVINE
CRYPTO-EP**
100ml×10本入り



牛用飼育用混合飼料
ボバインクリプト-EP



乳牛・肉牛飼料の専門メーカー

株式会社 オールインワン

ご用命は

中国支店: 〒710-0826 岡山県倉敷市老松町1丁目2-40-101
TEL (086) 427-6300 FAX (086) 427-6011
E-mail: y-suwa@all-in-one.co.jp

残暑お見舞い申し上げます



蒜山酪農農業協同組合

代表理事組合長 長恒 充

〒717-0501 岡山県真庭市蒜山中福田958
TEL: 0867-66-3645 FAX: 0867-66-3647
E-mail: hiruzenjersey-info@hiruraku.com



残暑お見舞い申し上げます



おかやま酪農農業協同組合

代表理事組合長 檜尾 康知

〒708-0841 津山市川崎94-1
TEL (0868) 26-1101 FAX (0868) 26-6763



残暑お見舞い申し上げます

畜産機械器具、資材取扱

西日本興農株式会社

代表取締役 柿 本 平 三

〒708-0841 津山市川崎86-1
TEL 0868-26-1180 FAX 0868-26-6836

残暑お見舞い申しあげます

岡山県農業信用基金協会

農家のための優良保証機関 会長理事 三宅 雅之

〒700-0826 岡山市北区磨屋町9番18の401号(岡山県農業会館)

TEL(086)222-3218 FAX(086)226-3443

残暑お見舞い申し上げます

公益社団法人 岡山県獣医師会

会長 中村 金一

役職員一同

〒700-0973 岡山市北区下中野350-103

TEL (086)243-1879 FAX (086)241-8543 <http://www.oka-vet.or.jp/>

残暑お見舞い申し上げます

暑い夏が過ぎれば、受胎率向上のチャンスです！

岡山県家畜人工授精師協会

会長 狩谷 和宏

会員一同

残暑お見舞い申し上げます

畜産経営の安定に寄与する

(一社)岡山県配合飼料価格安定基金協会

理事長 坂本 修三

役職員一同

〒700-0973 岡山市北区下中野350-103

TEL(086)241-4733 FAX(086)241-4722

残暑お見舞い申し上げます

岡山県養鶏協会

会長 安原 健二
役員 一同

残暑お見舞い申し上げます

岡山県孵卵協会

会長 山上 祐一郎

残暑お見舞い申し上げます

本物の味わい……新鮮な岡山の畜産物。

地方競馬益金は畜産振興を支援しています。

岡山県馬事畜産振興協議会

残暑お見舞い申し上げます

岡山県養豚振興協会

会長 梶田 謙二

事務局 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館
(一社)岡山県畜産協会内 (086)234-5981



残暑お見舞い申し上げます

くみあいミツシュB



ビタミンB群サプリメント

くみあいミツシュBとは…

生体の代謝活動に関与するビタミンB群をメインとしたサプリメントです。ビタミンB群はエネルギー反応系で補酵素的に働くため、暑熱ストレスを緩和します。その中でもくみあいミツシュBには、肝機能強化に有効なパントテン酸を多く含んでいます。

パントテン酸（ビタミンB5）について

パントテン酸は生体内で補酵素に変換され、糖質・脂質・蛋白質の代謝を回し、エネルギーをつくりだす補助をする働きがあります。脂質代謝を改善し、肝臓への脂肪の大量蓄積（脂肪肝）を防止する働きがあると言われています。

給与方法

・肥育牛

夏場の食いどまり対策として、食いが落ちてきた牛に
1頭あたり50～100g 給与

・乳牛、繁殖牛

分娩後の食欲低下やケトosis予防として
1日1頭あたり100g / 分娩後30日間



通常品
10kg紙袋

生産性向上のため、
ぜひご活用ください。
お問い合わせはお近くの
JA、くみあい飼料まで！



JA全農くみあい飼料株式会社

西日本事業本部

（公社）中央畜産会からのお知らせ



畜産映像情報

がんばる！畜産！8

畜産現場の“今”を30分の番組にしました！

映像を各種研修会、セミナーにご活用ください！

配信中の内容：総集編 思いが繋ぐ畜産の未来／明るい未来へ向けて畜産DXの取り組み／乳用牛改良の取り組み／地域ぐるみで国産飼料生産！ ほか



◀スマートフォンからはこちら

▼パソコンからはこちらで検索

がんばる畜産



お問合せ：（公社）中央畜産会 経営支援部（情報） TEL03-6206-0846

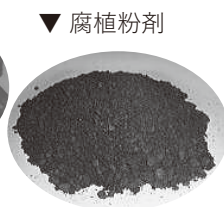
腐植・フルボ酸で 畜産のあらゆる課題を解決！

腐植土とは

落葉樹の落ち葉と有機物と無機物が約8,000年もの間地中に埋蔵され、発酵と熟成を繰り返して生成されました。フミン酸、フルボ酸、天然ミネラル、アミノ酸、ビタミン、有用菌などを豊富に含むユニークな土壌です。フミン酸、フルボ酸の化学構造や種々の性質は未解明な部分も多い神秘的な物質です。



▲ 腐植ペレット



▼ 腐植粉剤

排水処理

浄化促進・悪臭防除・汚泥改質

堆肥

無臭化・発酵促進・土壌改良

補助飼料

発育促進・飼料節約・疾病防止

飲水改善

水質改善・発育促進・疾病防止



エンザイム株式会社
腐植土とともに環境と健康を考える

〒143-0016 東京都大田区大森北2-3-16 第一かぎわだビル4F
TEL: 03-5493-2771 FAX: 03-5493-2776 MAIL: info@enzyme.co.jp
担当: 末吉 (090-5704-0011)
HP: <https://www.enzyme.co.jp/>



残暑お見舞い申し上げます

FOSS

乳・乳製品・飼料分析ソリューション



【BacSomatic™】

乳中の体細胞数・細菌数を同時に短時間で測定可能！

乳房炎、衛生状況のモニタリングや原料乳受け入れ現場でのスクリーニング検査の効率化を実現できます。

測定項目：細菌数(IBC、CFU)、体細胞数

測定対象：生乳



【MilkoScan™ Mars】 FT-IR乳成分分析装置

生乳成分を1分で測定する、コンパクトモデル！

生乳の品質管理、原料乳の標準化、製造管理の効率化を高い次元で支援します。

測定項目：脂肪、タンパク、乳糖、全固形、無脂固形、氷点(加水)

測定対象：生乳、製品乳



【NIRS™ DS2500F】 NIR分析装置

飼料、飼料原料の複数成分を1分で同時分析！

TMRセンターでの飼料設計、飼料品質の最適化を支援します。

測定項目：脂肪、タンパク、水分、灰分、スターチ、粗繊維など

測定対象：飼料、飼料原料、配合飼料

ANALYTICS BEYOND MEASURE

フォス・ジャパン株式会社

セールス・サービス拠点：札幌・大阪・福岡

TEL: 03-5962-4811 / Mail: info@foss.co.jp

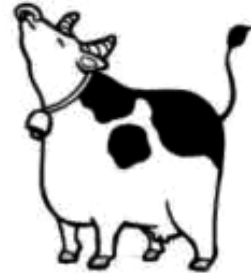
残暑お見舞い申し上げます

動物用 カルシウム剤 ダービー

ダービーは貝化石の
微粉末であり貝化石には
カルシウムや各種ミネラルが
豊富に含まれています。
カルシウムの供給源として
搾乳牛や子牛にも
最適です。



おいしいよ〜♪



JYUCHIKU Co. Ltd. 株式会社ジュウチク

〒701-1521 岡山県岡山市北区日近 726

Tel.086-295-9230 Fax.086-295-9240

Email : jyuchiku-info@po.oninet.ne.jp

健康な仔牛づくりへの
一歩目はこれから！



残暑お見舞い申し上げます

弊社では、四十年余り培ってきた醗酵技術を用
いることで、乳酸菌やその他の菌類を使用した良
質な醗酵飼料を、肉用・乳用を問わず、全ての
ステージの牛に対して提供しております。

また、弊社ではこれらの技術を利用したオーダ
ー品の設計や生産、飼料米の粉碎などの原料の
加工も承っております。

原料を持込での加工依頼や、御要望の数量の
多寡を問わず、まずはお気軽に御相談下さい。

醗酵飼料のパイオニア
フタバ飼料株式会社

〒709-0841 岡山県岡山市東区瀬戸町方富1057-1

TEL 086-953-0832 FAX 086-953-1870

E-mail : futabashiryo.co.jp

残暑お見舞い申し上げます

生乳集荷の「安全・安心」な輸送業務に取り組んでおります。

株式会社 きびじ酪農運輸 代表取締役 笹野 英明

本 社 〒719-1156 総社市門田70-1 TEL(0866)93-8790

阿曽事務所 〒719-1103 総社市西阿曽前田193-4
TEL(0866)99-8300 FAX(0866)99-8301



ホンモノは、おいしい。
OHAYO

残暑お見舞い申し上げます

カラダの健康を、根本から。

今日からはじめる体内菌質ケア

「日々お口にするものから、
大切な人の健康を支える存在でありたい」
そのような想いから、カラダの根本を考え、
体内にすむ500兆個の細菌バランスへの
アプローチに着目したロイテリ乳酸菌ヨーグルトを開発しました。

ロイテリ乳酸菌は、
お口から腸まで、様々な場所に生きて届く、
細菌バランスを考える方に送りたい、
特別な善玉菌です。

ロイテリ乳酸菌ヨーグルトを通じて、
おいしさを楽しんでいただきながら
お客様とその家族の健やかな笑顔を増やしていきたいと、
強く願っています。

家族で
つづける
新習慣

お口から
腸まで
生きて届く

ヒト由来の
乳酸菌



●商品名:ロイテリ乳酸菌ヨーグルト ●種類別:発酵乳 ●内容量:110g
●成分:無脂乳固形分 10.0%/乳脂肪分 2.0%
●原材料名:生乳(国産)、乳製品、乳たんぱく、ゼラチン/甘味料(キシリトール)
●賞味期間:17日間(未開封) ●保存方法:要冷蔵(10℃以下) ●販売地域:全国
※キシリトール配合のため、体質によりおなかが続くことがあります。※ペットには与えないでください。

オハヨー乳業株式会社

残暑お見舞い申し上げます



動物の健康は 人の健康につながる

- 動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。
- 安全な畜水産物の生産をサポートし、獣医療の発展と食の安全・安心に貢献します。

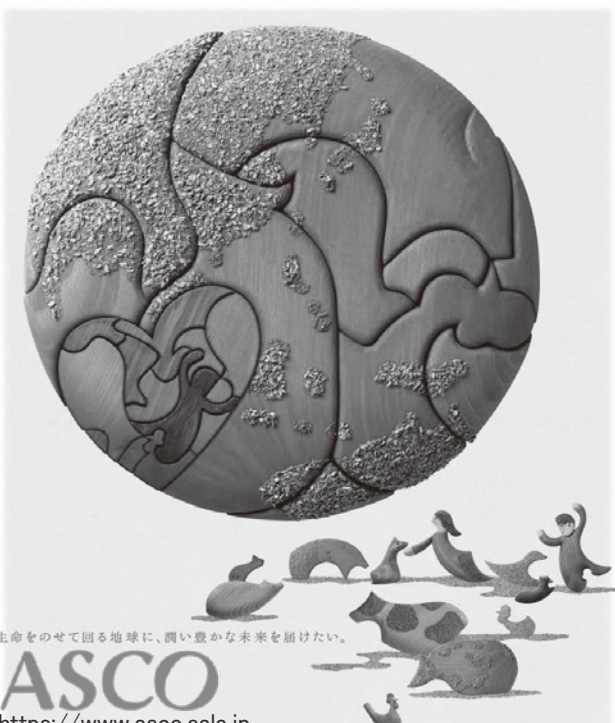
MPアグロ株式会社

本社 〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13
TEL 011(376)3860 FAX 011(376)2600

岡山支店 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4880 FAX 086-724-4889
AHSC西日本 〒702-8032 岡山市南区福富中2丁目6-18 TEL 086-902-2200 FAX 086-264-2500
御津物流センター 〒709-2122 岡山市北区御津吉尾1-1 TEL 086-724-4816 FAX 086-724-4882
東京本部・札幌・旭川・函館・帯広・北見・釧路・青森・秋田・盛岡・山形・仙台・東京・北関東
大阪第一・大阪第二・兵庫・広島・山口・鳥取・島根・高松・徳島・松山・宇和島
福岡オフィス・福岡第一・福岡第二・熊本・宮崎・鹿児島・鹿屋
札幌物流センター・帯広物流センター・盛岡物流センター・関東物流センター

残暑お見舞い申し上げます

人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します



本社

〒441-8021
愛知県豊橋市白河町100番地
TEL 0532-34-3821 FAX 0532-33-3611

東京本社

〒103-0027
東京都中央区日本橋1丁目16番地3号
日本橋木村ビル7階
TEL 03-6225-5790 FAX 03-6225-5791

営業所

- ・北海道支店
札幌
- ・東日本支店
前橋、松本、旭、茨城、栃木、東京
大宮、宮城、福島
- ・中日本支店
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜、名古屋
- ・西日本支店
広島、山口、米子、岡山、大阪、京都



食卓からの、 ありがとう。

私たちがおいしい牛乳やお肉、

卵を食べられるのは、

畜産に携わるすべての人のおかげです。

さまざまな人の努力や思いがあるからこそ、

今日の食卓が豊かになっている。

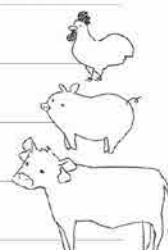
そのことを、私たちは知っています。

おいしい国産の畜産物が、

この先も続いていくように。

豊かな畜産の未来に向かって、

できることを続けます。



国産の牛乳、お肉、卵を 食べてまもろう。



地方競馬と全国の畜産会組織は
日本の畜産を応援しています。

地方競馬の売上の一部は、地域のくらしや畜産の振興に
役立てられています。

<https://jlia.lin.jp/tekiseikakaku/>

公益社団法人

中央畜産会

JAPAN LIVESTOCK
INDUSTRY ASSOCIATION



一般社団法人

岡山県畜産協会



高知競馬開催案内(2025)

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

9月				10月			
開催日	備考			開催日	備考		
1 月				17 水			
2 火				18 木			
3 水				19 金			
4 木				20 土			
5 金				21 日	○ ナイター		
6 土	○ ナイター			22 月			
7 日	○ ナイター			23 火	○ ナイター		
8 月				24 水			
9 火				25 木			
10 水				26 金			
11 木				27 土	○ ナイター		
12 金				28 日	○ ナイター		
13 土	○ ナイター			29 月			
14 日	○ ナイター			30 火			
15 月							
16 火							

ホットニュース

岡山県養豚振興協会では、今年度、生産者の皆さまが丹精込めて育てた県産豚肉の価値向上や広報活動に重点的に取り組んでいます。「県産豚肉試食会・意見交換会」(7/16開催)では、県内6農場の豚肉を囲み、今後のPR戦略等について活発な意見交換を行いました。また、全農岡山県本部主催の「食の学校2025」(8/6・8開催)や、「宇野港フランスフェスティバル」(8/30・31開催)では、消費者の声を直接お伺いしながら、県産豚肉をPRしました。これらの活動はメディアへも発信し、認知度向上を図っています。今後の養豚経営には、日々の生産努力に加え、消費者から選ばれるためのブランド構築や販路拡大がますます重要になっています。下半期もイベント出展や消費者視点を踏まえた豚肉流通に関する研修会を通じ、その強化に努めてまいります。

あとがき

1年ぶりに穂高連峰を縦走してきた。今回は最も険しいルートで、体力も技術も精神力も、すべてを試される時間だった。重い荷を背負い、岩場を踏みしめ、風と光と霧の変化に抗いながら進む道は、まさに自分自身との対話であり、自然とのささやかな語りでもあった。登頂と下山の間に押し寄せる疲労感、単なる肉体の限界を超え、思考や感覚の境界を揺らし続けた。雲間から差す光、遙か彼方に沈む夕陽、そして心の奥で静かに湧き上がる感謝の念。この山行で得たものは、単なる達成感ではない。日常の平凡さの尊さ。無事の帰りを祈り、気にかけてくれる人の温かさ。過去と未来が静かに結ばれ、ありふれた日々が一層輝いて見える。「今を生きること」の意味と、その喜びを、改めてかみしめた旅であった。(H.F)

岡山畜産便り 8月号(夏季号)

第76巻 第5号(通巻718号)
令和7年8月29日発行
定価250円(消費税・送料含)

発行人 中塚陽二郎 編集人 藤原裕士
発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会
〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階
TEL 086-221-0511 FAX 086-234-6031
印刷所 ノーイン株式会社

残暑お見舞い申し上げます

安全・安心な肉用牛・肉豚・鶏卵の生産農場

岡山JA畜産グループ

新見市哲多町田淵1626番地の1

岡山JA畜産株式会社

代表取締役 梶田 謙二

新見市哲多町田淵1626番地1

有限会社 哲多和牛牧場

代表取締役 谷田 宏

残暑お見舞い
申し上げます



岡山県産牛肉銘柄推進協議会

会長 藤原 雅人

事務局 岡山市南区藤田556-126

全国農業協同組合連合会岡山県本部畜産部畜産販売課内

T E L (086) 296-5033 F A X (086) 296-5089